

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

・令和6年3月12日(火) 16:00～ 岸根高校会議室

出席者:

学校運営協議会委員・長島 由佳様(すこやかサークル会長) 三田 敏幸様(岸根町内会会長)
金子 博美様(篠原西小学校校長) 望月 選様(F・マリノススポーツクラブ理事)
奥山 恭子様(岸根高校PTA会長) 久祢田 啓嗣(岸根高校学校長)
・職員・長澤 利恵子(副校長)、金子 玲王(カリキュラムGサブリーダー)
松井 浩気(キャリア支援G総括)、菊本 亘孝(サポートG総括)、浦野 高宏(生活支援G総括)、
尾崎 明美(地域連携協働G総括)、川崎 陽香(学校管理運営G総括) ※G = グループ

I、校長あいさつ

・評価ということで話し合い報告をすすめ今後の学校活動のためにつなげていきたい。

II、会長あいさつ

・校外活動、卓球部のボランティアの活躍がとても素晴らしかった。

III、報告事項

○学校の課題解決に向けた取組結果について(校長)

生徒と一緒に活動する行事等生徒のいきいきした表情が印象的であった。

キャリア支援のグループSTの活動の成果を感じている。

働き方改革について個人差があり、課題解決は難しいができる限りのことは進めていく。

色々な取り組みを行っているということを基に話し合いを進めていきたい。

○令和5年度学校評価期末報告

・カリキュラムグループより

授業評価の結果→1回目から2回目で結果が向上しているので良かった。

職員間の授業観察を増やし生徒の学びの実感を感じられるようにしていきたい。

・生活支援グループより

服装等指導については常に継続して行う必要を感じている。

心のサポートが必要な生徒が多いので対応を続けていく必要がある。

鶴見支援学校からの助言を参考に取り入れられることを取り入れ協同していきたい。

学校生活アンケート→いじめについての回答が0ではないので気になる生徒については個別に面談等進めている。

・サポートグループより

部活動を退部した生徒の意見や休日の数等、部活動のあり方について生徒の意見を丁寧に聞きつつ精査して歩み寄りながら方向性を定めていきたい。

今年度活動した内容を振り返り、次年度に繋げていきたい。

・キャリア支援グループより

総合的な探求の時間について39期生から改革的取り組みをすすめ、入試のあり方の変化等にも対応し課題を持って進めてきた。

外部からの講師をたくさん招き教員自身も学びながら生徒も学んでいける活動をおこなった。
生徒の不都合にならないように資料等整理し進路活動を進めていきたい。

・地域連携協働グループより

新たな絆が生まれたり、生徒が交流できる場面が多く感謝している。
すこやか祭り等を通して人の絆が大切であることを感じた1年であった。

・学校管理運営グループより

PC等ハード面での整備に尽力した。
ソフト面はカリキュラムG等で推進することができた。
評価部会では、グループ会議に長島会長を招き、若手の教員たちが自身の意見等も発信できて良かった。
防災について地域と連携していけるように新たに考えて行く必要がある。
地域と連携していく活動が更に必要かと思う。

○学校教育計画「4年間の目標」に対する取組の達成度評価報告

★カリキュラムグループより

新学習指導要領（新カリキュラム）に対応するためICTなどの活用を通して授業力の向上に繋がっている4年間の目標達成ができたかと思う。

★生活支援グループより

挨拶について、生徒は個人差があるが部活単位や多くの教員との関わりで概ね達成できたか。
SC, SSWの配置で生徒の認知度もあがり、生徒の相談の場として活用できている。
家庭的な問題も含め解決に向けて活用することができた。
こころサポート事業は今後も続けていく。

★サポートグループより

この4年間は制限のある中で創意工夫をこらして行事等活動できた。
その中で生徒は主体的な行動を取りながら他との協働もできたのではないかと思う。さらなる他者との協働を目標にしていきたい。

★キャリア支援グループより

4年間での大きな変化の一つは、進路室の整理により生徒の活用に役立てたことである。
総合型選抜での合格が多かったが、進学準備にあたる生徒が39期から減ってきたと思われる。

★地域連携協働グループより

4年間での振り返りとして、コロナ禍では制限が多く外部、地域と連携する活動が減ってしまったが、今後も引き続き連携していきたい。

★学校管理運営グループより

目標の達成はできたと思われる。
感染等に気をつけながら学習活動することができた。
防災意識について今後ともさらなる向上をはかっていきたい。

IV、意見交換

★A:

4年間の振り返りとしては制限が多く実施できなかったことが多かった、5年度から再開してきたが、久しぶりなので分からない状態が多く準備等しっかり進めて今後期待して頂きたい、絆プロジェクト、作品展等今

後も企画していきたい。防災について、地域の防災倉庫、コロナ以降手をつけていないので引き続き課題としたい。5年度から新たな自主防災部を作ったので岸根高校生徒との関わりなど考えていきたい。多くの人に防災倉庫の中等確認しておく機会をつくっていく。

★B:

生徒の部活動の参加の仕方、続けていく工夫をしてなるべく生徒の継続に繋げて行ってほしい。

勉強だけではなく部活動を通して心身健康であってほしい。

4年間のまとめというわけではなく今後も部活動については工夫をして行ってほしい。

こころサポート事業は良い取組である。部活動でもこころのケアが大事である。

★C:

隣接する小学校ということで地域連携を絶やさずにできることが素晴らしい。小高生、ならびに保護者の危機管理の感覚の違いや難しくてできなかったことがあったが、継続していくことがたいせつである。

もともとあった協働活動、クラブ交流など久しぶりに再開した活動についてできるようになってきたが、その準備段階で分からない職員も多く、勉強になった。

職員の研修等も含め子供同士だけではなく、教師の交流も必要であり、そういった姿を見ることができて良かった。

★D:

PTAもコロナによって変化を感じた、PTA活動への参加が難しい家庭が多く、時代的にもPTAの活動も難しく感じる家庭が増えた。しかし生徒の学校生活の充実のためにもPTA活動も活動的にしていきたい。

★E:

生活支援グループが「いじめ」が残念と発言していましたが、いじめについて生徒が伝えてくれたことを評価してほしい。地域は学校を信頼し良い関係を築けている。教員同士の連携や職員同士の交流がり、4年間の目標の達成に繋がったのかと思う。